

・タヌキはネコ目イヌ科タヌキ属に属する日本在来の中型哺乳類である。北海道を除く全国に広く分布する**ホンダヌキ**と北海道にのみ分布する**エゾタヌキ**とに分けられている。世界的には日本と東アジアにのみ（欧米では毛皮利用目的に持ち込まれた個体群が野生化している）分布する珍しい動物といえる。それゆえ、日本の機関がシンガポール動物園へホンダヌキのペアを贈ったところ、「パンダ並み」の珍獣と扱われ、タヌキに冷暖房完備の専用舎が用意されたうえに、歓迎式典まで開かれたという。

・イヌ科に属することからもわかるように、その習性はイヌと似ているが雑食性であり、**ネズミ・昆虫・鳥などの小動物や柿・銀杏などの果実**を食べる。また、噛み癖があるため、**マヨネーズ**のチューブを噛み続けて歯形が付いた状態の痕跡をよく見かける。イヌよりも短足すんどうなのは、オオカミのような平原ではなく、森林や水辺での生活に適応するためといわれている。（指の間には皮膜があり、これが水掻きの役目をしている。）アナグマと違って冬眠は行わないが、秋のうちにたくさん食べて脂肪を蓄えるため、冬の体重は 1.5 倍ほどになる。

・**夜行性**の動物であり、天気が良い夜に拾い食いをしながら徘徊し、明け方には帰宅する。日中は、人や外敵の近付かない巣穴や茂みに潜んでいて、家族が一塊になってじっとしている。早朝や夕刻時にも姿を見かけることがあるが、これは、①夜間の天気が悪く朝まで外に出られなかった、②疥癬病※1 などによる衰弱個体が日中人前に現れた、③巣穴や隠れ場所の環境が荒らされたり破壊されたりして居場所がなくなった、などが考えられる。

・タヌキの行動範囲は約 10~100ha（多摩丘陵では約 50ha、山地ではそれ以上）で、一年を通じて**家族やペア**で行動をともにしている。ペアは一生涯解消されることはなく、その点では人間やカラスと同様、絆の深いおしどり夫婦といえる。行動範囲は、いわゆる縄張りとは違って、群れどうしで重なり合っている。多摩丘陵では、パッチ状に残された公園や緑地の樹林地から樹林地へとケモノ道を利用して移動することが分かっているが、その間には幹線道路や国道があるケースも多い。交通事故（ロードキル）が多いのはこのためである。また、側溝や中央分離帯の植え込み、歩行者道路などを巧みに利用しているのが観察されており、ケモノ道といっても特別なルートを開拓しているわけではないようだ。

・**ためフン**をする習性があり、上述の徘徊ルート上の数か所にフンのかたまりを見つけることができる。通常は一つの行動範囲につき 10 箇所ほどためフン場があるといわれているが、多摩ニュータウンでは大きなためフン場を時々見かけるのみである。ためフン場は複数のタヌキが利用するため、フンの臭いを通じて”餌の情報”などのコミュニケーションを図っているのではないかとされている。使わなくなったためフン場からはフンに含まれていた種子から様々な植物が芽生えてくるため、その一帯が緑のじゅうたんのように見えることが多い。

・野生下におけるタヌキの寿命は 6~8 年といわれている。生活史としては、早春に交尾が行われ、2 ヶ月程度の妊娠期を経て**初夏に 5 頭~7 頭を出産**する。秋にかけて夫婦で子育てが行われ、晩秋には巣立ちを迎える。巣立った若いタヌキたちも、翌年には既に繁殖能力が備わっている。

・タヌキは漢字で「狸（里のケモノ）」と書く。また、タヌキはその臆病な性格から、死んだふりを「狸寝入り」と呼んだり、その名前が、「他抜き（他を抜く）」に通ずることから、縁起物として店先や軒先に置物を飾る習慣がある。これらのことからわかるように、古くから**最も人々に親しまれてきた哺乳類**である。このほかにも「ムジナ」をはじめとする地方名や「たぬき汁」といった料理が今も存在することなど、様々なところで人との接点を垣間見ることができる。なお、タヌキの腹鼓の音を表現した”ぼんぼこ”はタヌキを表す俗語である。※2

※1 疥癬病・・・ヒゼンダニの寄生による皮膚感染症。イヌ疥癬、ネコ疥癬などがあり、タヌキはイヌ疥癬に感染する。人慣れし、ペットフードや生ごみを食べるようになったタヌキが下痢を起こし、免疫力が低下している時に飼犬などと接触機会があると感染することがある。全身あるいは一部の毛が抜け、皮膚がただれているのが特徴である。家族の絆が強く、仲間どうしのスキンシップが多いことからタヌキどうしの感染スピードは速い。強い痒みを伴うため、掻き続けてさらに脱毛してしまうことから、体温調節ができなくなり、冬場の寒さに耐えられず死んでしまう個体が多い。私が稲城で継続観察した疥癬病のタヌキはシーズン中に7頭から2頭に減ってしまい、その後残りの2頭も姿が見えなくなってしまった。最期は全身の毛が抜け、別の動物のようだった。なお、疥癬病の流行は数年に一度くらいのペースで各地で起きているようである。



稲城の疥癬タヌキ



稲城の疥癬タヌキ

※2 タヌキが登場する物語や商品として、「平成狸合戦ぽんぽこ」、「たんたんたぬきの」、「げんこつやまのためきさん」、「ゼロ弾きのゴージュ」、「文福茶釜」、「かちかち山」（当時は人を食べる凶悪な化け物であった。）、「赤いきつねと緑のためき」、「どうぶつの森シリーズ」、「スーパーマリオブラザーズ3」などがある。

※3 タヌキについてもっと詳しく知りたい方へおすすめの書籍



資料 1：タヌキと里山のケモノたち（中型哺乳類）



ホンドタヌキ



ニホンアナグマ



ハクビシン



アライグマ



ニホンイタチ



ニホンノウサギ



ホンドギツネ



里山の4大中型哺乳類

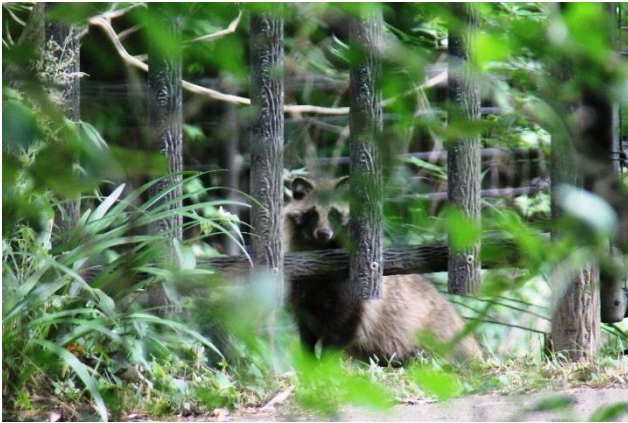
資料 2：タヌキの生態



河川敷で日向ぼっこするタヌキ



枯れたヨシにカモフラージュする体色



日中もばったり遭遇することがある



側溝から顔を出した珍しい白変個体



車のヘッドライトに驚いて狸寝入り



アライグマ捕獲檻で誤捕獲された個体

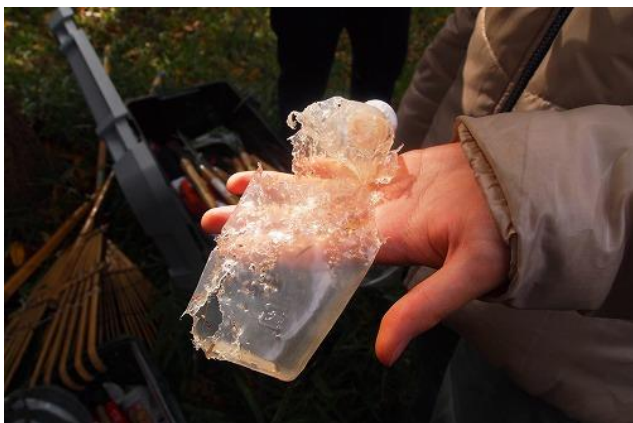


日中は茂みで気配を殺している



センサーカメラが捉えた夜の姿

資料3：タヌキの痕跡



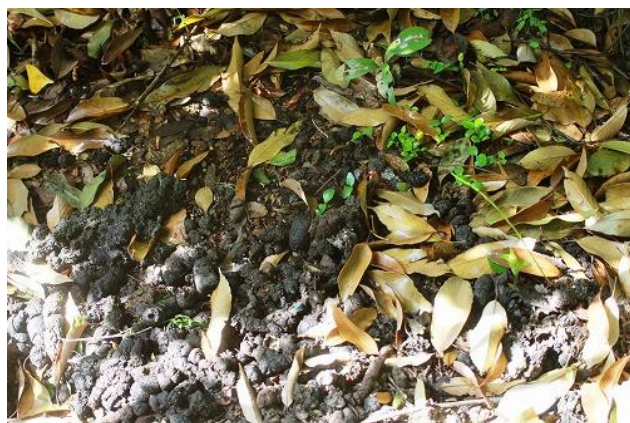
噛み痕の付いたマヨネーズ容器



樹林内や犬走りによく見つかる



ためフンには未消化の種子などが見られる



獣道を探す目印となる



ためフンから芽生えたイチョウが緑のマットに



足あとはツメのある梅の花型



アナグマの古巣を利用したタヌキの巣穴



入口はアクセストレンチといって踏み固められる

(補足資料) 皆さんも一緒に考えてみましょう！

1. 活動場所のすぐそばでタヌキの巣穴や痕跡が見つかったら、あなたならどうしますか？

調べるためにできそうなこと

守るためにできそうなこと

伝えるためにできそうなこと

2. 地元の小学生から、「昼間に毛の無いタヌキを見た」と相談があったら、どのように説明してあげますか？

3. 下記は八王子市内の都市公園で実際に問題となっている事例です。良い解決策はないのでしょうか？



植え込みの中に大量のビニール袋が散乱しています。これらは野良猫の投げ餌として、キャットフードがほぼ毎日、数年の間、投入されてきた形跡です。この行為を日課として続けてこられた方は特定できていません。



野良猫に混ざって野生のタヌキがこの場所に集まります。キャットフードや袋を習慣的に食べ続け、依存しています。直接要因は不明ですが、不健康なフンや死骸も見つかりました。餌やり禁止サインも効果がなく・・・